



2005年度第9号

やまなみ

サンフランシスコ日本語補習校
理事会通信

2006年1月1日発行

第5回理事会

(浅尾理事長)

12月8日第5回理事会が開催されました。以下に討議内容の概略を報告いたします。

(1) DB システム構築とメンテナンス

昨年より取り組んでいる、DB (データベース) システム構築に関する現状と、今後の運用に関して長岡理事より説明がありました。(詳細は本やまなみの別項目を参照)

(2) 学校歯科医設置の件

本年より学校医制度が発足していますが、新たに学校歯科医設置が安理事より提案され、了承されました。来年度に向け、本制度にご賛同いただける歯科医を選定する作業に着手します。

(3) 2005年度収支見込および2006年度予算案

佐藤理事より、2005年度収支見込および2006年度予算案が提示され、一部修正のうえ了承されました。

(4) SJ 校学校医について

サニーバール市の開業医である小林医師より、学校医としての協力申し出があり、喜んでお受けすることになりました。(詳細は本やまなみの別項目を参照)

(5) 校歌 CD 作成の件

校歌作成委員長の松波理事より現状報告があり、リハーサルのデモを視聴しました。1週間以内に正式作成が行われます。リハーサルを聞いた理事からは、完成が待ち遠しいとの感想が寄せられました。著作権に関しては、学校行事等での使用は問題ないが、ホームページ掲載など一般公開することはまだ調査が必要で、当面差し控えることになりました。

(6) 小学部 SJ 校ドロップオフについて

松波理事より、小学部 SJ 校におけるドロップオフについてのアンケート結果の報告がなされました。1月の試行結果を受けて、最終導入の結論を出すことになりました。安全性に問題がなければ、来年度4月から本格実施になります。

(7) 第16回オープンハウス

11月のやまなみでお知らせしました第16回オープンハウスは、12月3日に行われました。School District、借用校関係者、児童生徒の現地校の教員の方々に、補習校の活動をよくご理解いただくことができました。今回の成果に基づいて、オープンハウスの重要性を再認識するとともに、オープンハウスの毎年開催の提案がなされ、来年度の検討課題としました。

(8) 補習校の将来像を検討する委員会からの答申

補習校の将来像を検討する委員会からの答申が村山委員長からなされました。(詳細は本やまなみ別項目参照) これを受けて役員会で検討し方向性を出し、評議会に諮問した上で、次回理事会で決定することになりました。

卒業記念 CD/DVD に校歌を入れませんか?

(安校務委員長)

理事会では本年度、本補習校校歌の指導教材を保護者有志のご協力により制作しました。ピアノ伴奏による女声独唱です。この3月に卒業する小6年生、中3年生、

高2年生のクラスで、卒業記念 CD などに校歌を含めたいご希望の場合、事務局まで申し出てください。なお、音源の貸し出しに際しては、取り扱いに関する留意事項を確認のうえ署名をお願いすることがあります。

データベースシステムの現状

(長岡理事)

以前のやまなみでお知らせした通り、12月中にデータベースシステムの完成を目指していましたが、データ漏洩の安全性を再度確認してから開始すべきとの判断で開始時期を多少遅らせています。現在インターネットのサービスプロバイダー(管理会社)に対して一部のセキュリティーの問題を指摘しています。皆さんの大切な個人情報を守るべく、データ漏洩問題の専門家である補習校システム化推進委員の皆様への厳しい監視のもと確認作業を行っています。推進委員会より承認を得たのちに直ちに試行運用を始めるつもりです。開始に伴って保護者のご自宅にユーザー名とパスワードの入ったお知らせが郵送されますので皆様のご協力をお願い致します。ご質問は support@sfjlc.com まで。

将来像委員会答申

(村山委員長)

将来像委員会には今まで保護者の皆様からアンケート、意見交換会、また個人的な接点を通じて様々なご助言を頂き、ありがとうございました。委員会は12月の理事会で理事長へ最終答申を提出しました。答申の詳しい内容は追って発表しますが、Executive Summary だけここに転載いたします。この提言の内容はまだ理事会の承認を受けたものではなく、理事会ではこの提言を受けて、どのように対応するか検討を行います。

Executive Summary

世界第二の規模を持つ当サンフランシスコ日本語補習校は転機にある。創立当初の帰国する子供たちを助けるための補習校の理念は残るものの、長期滞在・永住者の比重が増え、ニーズが多様化している。また、生徒数の減少と政府の方針から現在の派遣校長・四教頭の体制を維持できなくなると思われる。一方文科省も補習校を「海外の先駆的な取組を日本の学校教育に生かす」として位置づけを変える動きがある。特に言語・文化の狭間にあり、文字通り人種のるつぼにある Bay Area の教育機関として、補習校はグローバルな視野を持つ子供たちを育てるすばらしい機会に恵まれている。

こうした新しい時代に適応するため将来像委員会では12月の提言をする。どれも最善を目指すためのもので完璧な案ではないが、現在の境界条件と保護者からのニーズに応えるため出来る限り具体的な提案を目指した。それぞれの提言の背景にあるデータと議論は報告書の本文に詳細に述べられている。ここに提言の骨子をまとめる。

(1) 学校基本方針、生徒募集要項、広報活動

帰国する子供たちが日本の学校に適應できるような教育を施すのが第一義だが、「帰国対応」を広く考え、当面日本の学校に入る予定のない子弟も受け入れ、様々な背景を持つ子供たちの交流を図ることも補習校の目的とする。

(2) 目的別クラス編成

目的別クラス編成を導入し教育効果の向上を目指す。一方すべての科目を分けることは避け子供たちの幅広い交流を図る。

(3) 科目選択制

国語以外の科目を選択にする意見もあるが、国語力の向上は国語の時間だけでなく色々な科目・活動から学ぶこと、また選択を導入して授業を早く終わるようにするためには教員の数を

増やさなくてはいけないことから、今まで通り4教科を原則とする。

(4)補習校で単位を与えられるための認定を受けること
子供たちに強い動機を与えるため、また現地校でも教えている教員の助けになるため、School District からの Independent Study の認定、また WASC からの認定を目指したい。まずは現地校でも教えている教員を中心に委員会を組織し、認定の手続きを詳しく調査する。

(5)幼稚部の併設
国語力の早期教育、また児童数の確保のため幼稚部の併設を積極的に考える。

(6)下校時間統一
高学年の修業を待つ低学年のために宿題を見たり課外活動をする After School Program (有料) を設ける。

(7)派遣教員削減の対策
5名の派遣教員を維持するための文科省の基準である1600名の児童生徒数を確保する見込みは薄い。少ない派遣教員で学校を運営できる体制作りが必要。

(8)帰国対策
帰国者のニーズに応えるため、派遣教員による進路指導、帰国子女受け入れ校についての説明会、全国標準学力テスト・漢字検定試験の実施、英語検定試験の紹介などを行う。

(9)欠席対策
現地校、スポーツなどの活動との両立を可能にするため、欠席した場合に授業内容に追いつけるようカリキュラムをウェブなどで公開し、補助教材も使用する。

(10)その他の保護者の要望
ブログ、名簿の配布などで保護者間の連絡を助け、保護者による課外活動、カープ、バスの手配などを容易にする。学校区も個別に柔軟に対応することを明記する。また、児童会、生徒会、保護者会の活動の促進のため休み時間の配分などの見直しも考える。

(11)地域対策
積極的に保護者の助けを借りて地域との関係改善努力をする。

(12)経営
有料の After School Program、幼稚部の併設による児童数確保、WASC 認定・修学旅行などの魅力による高校生徒数の増加を通じて経営改善を期待する。

21世紀の日本語補習校のあり方を模索する第一歩として理事会にご検討いただきたい。

借用校訪問

12月14日、学校長、教頭、事務局長、そして保護者会から鶴下 SJ 会長、原会計が、サンノゼ校の借用校である Cupertino 校と Kennedy 校を訪問し、平成18年4月から集中学習前までの契約を済ませました。この日は恒例のホリデーシーズン挨拶も兼ねており、補習校から借用校校長先生及びスタッフへのギフトを手渡し、保護者会から借用教室の担任教員宛にギフトカードが贈られました。またその後学校長、教頭、事務局長は運動会等で借用を予定している John Muir 校にも立ち寄り、挨拶並びにギフトの手渡しを行いました。

SJ校校医に小林秀一先生

学校保健への取り組みの一つとして、今年度より学校医制度を設け、これまでに児童・生徒に発生した流感や感染症などに素早く対応し、病気の知識に関するお便りを保護者宛に出すなど、学校医の果たす役割の重要性を確認しました。これまで学校医の荒屋潤先生には学校全体を見ていただいておりますが、この度本校保護者でサニーバール市で開業する内科医の小

林秀一先生に学校医としてご協力いただけることになり、理事会よりサンノゼ校の校医を委嘱しました。これにともない、荒屋先生にはSF校校医として、小林先生にはSJ校校医としてご活躍いただくこととなります。

事務局よりお知らせ

1月、2月の主な行事予定

月	日	行事予定
1	14	小学部 SF 校学校説明会
1	21	小学部 SJ 校学校説明会
1	28	小学部新1年生面接 (SF校、SJ校)
2	4	小学部新1年生面接 (SJ校)

平成18年度新1年生の入学受付について

サンフランシスコ日本語補習校では、平成18(2006)年4月から小学部1年生に入学を希望する児童についての入学願書受付を12月1日から開始いたしました。入学を申し込まれる方は、本校事務局までご連絡ください(415-989-4535)。

【出願資格】

保護者が当地での職務に派遣される者、または、理事会が承認する者で、将来日本の学校に入学・編入しようとする計画を持っている満6歳以上7歳未満の者。なお、平成18年度の小学部1年生は平成11年(1999)年4月2日から平成12年(2000)年4月1日までに出生した児童に限ります。

【学校説明会】

入学希望児童及び保護者を対象として、学校説明会と新入生面接を次の通り実施いたします。

小学部サンフランシスコ校	小学部サンノゼ校
学校説明会 1月14日(土)	学校説明会 1月21日(土)
新入生面接 1月28日(土)	新入生面接 1月28日(土) 2月4日(土)

【面接内容】

- (1) 自分の名前を言える、ひらがなで書ける。
- (2) ひらがなが読め、その言葉が絵と結びつく。
(はさみ、さかな、とけい、ねこ、あり等)
- (3) 日本語で意思の疎通が図れる。
- (4) 教師の指示が聞き取れ、それに従える。

【入学申し込み方法】

入学申込書と出生を証明するものの写し(パスポートのコピー等)を同封の上、本校事務局までご送付ください。なお、説明会と個人面談の案内につきましては、入学を申し込まれた方に郵送にてご案内いたします。*本校ホームページ(<http://sfjlc.org>)をご参照下さい。

「やまなみ」はサンフランシスコ日本語補習校理事会により月1回発行されます。

発行人：浅尾一郎

San Francisco Japanese Language Class, Inc.

760 Market Street, #816, San Francisco, CA 94102

電話：415-989-4535 FAX：415-989-2542

電子メール：理事会・事務局 office@sfjlc.org、学校 sfjlc@msn.org

ホームページ：<http://sfjlc.org>

理事会および学校事務局へのご意見・ご質問等を歓迎します。匿名でのお問い合わせ等には一切お答えいたしかねます。

無断複製・転載を禁ずる。©2005 All rights reserved.